

長期視点で見出す 成長分野と有望技術

双日の事業創造の最先端を担うイノベーション投資。
その意義とプロセス、これまでの成果の一部をご紹介します。

企業価値向上と社会貢献を実現

商社は、常に新しい成長市場を求め、有望なビジネスを探り続けることが使命です。これまで蓄積してきた知識や経験を活かして成長分野を見極め、双日自身にも新たな機能を付加していくこと、それが当社のイノベーション投資の目的です。

こうしたイノベーション投資によって、株主の皆さまに大きく貢献できます。新しいビジネスへの参画や市場の成長が、企業価値の向上をもたらすと期待できるからです。新たな仕事を取り込むことが、双日を大きく、強くしていくはずで

ます。また、新しい技術やアイデアのなかには、社会全体に利益をもたらすものが少なくありません。そうしたシーズの発掘や、それを世に出すための投資、事業の成長への参画は、社会的な意義も大きいものです。

「中期経営計画2023」の 注力領域がターゲット

イノベーションは不連続に何か新しいことをやっていくなかでもたらされます。いま取り組んでいる仕事の延長線上ではなく、10年先、20年先にどういう仕事をしていきたいのかを考え、そこに向かっていま足りないものをジャンプして取りに行く必要があります。主な投資ターゲットは、「中期経営計

執行役員
ビジネスイノベーション
推進担当本部長
中尾 泰久

Profile

通商産業省(当時)入省後、経済産業省商務情報政策局博覧会推進室長、特許庁総務部長、経済産業省大臣官房審議官、財務省副財務官などを歴任。2019年、双日に顧問として入社し、2020年より現職。



画2023]でお示ししている注力領域、つまりインフラ・ヘルスケア、成長市場×マーケットイン志向、素材・サーキュラーエコノミーの3領域です。想定される市場規模と潜在的な成長性を考慮して、より有望な投資先を見出していきます。

なかでも、デジタルとライフサイエンスはいま、注目すべき投資テーマです。ターゲットとする3領域を横断する技術であり、発展の可能性が高いものが見受けられるからです。同時に、脱炭素や地球温暖化問題の解決に資する技術にも関心をもっています。温室効果ガスの抑制につながるのか、社会、環境への負荷低減につながるのかは、投資判断の際の重要な判断基準のひとつとなっています。

長期的な成長の果実を共有するために

投資対象となるイノベーションの主体は、いわゆるベンチャーやスタートアップと呼ばれる企業です。これらの企業に対しては、金融業界からの投資が行われることが多くなっています。金融サイドの投資家は、2~3年といった短期間で資金を回収し新たな投資先に移っていくといった行動を取りがちです。

一方、当社は「patientな(辛抱強い)投資家」の立場を買

インタビュー動画は
こちらからご覧いただけます。

<https://www.sojitz.com/jp/ir/reports/stkholder/2021/#movie>



いています。目先の利益ではなく、長期的な成長の果実を、社会をはじめ多様なステークホルダーと共有することが、当社のイノベーション投資の目的だからです。

たとえば、需要の高まりが予想される再生可能エネルギーをはじめ新エネルギーに関する事業は、周辺環境の整備に多大な時間や資金を要します。ライフサイエンス・ビジネスにしても、人体に直接関わるものですから、拙速になることなく、治験などをていねいに行っていく必要があります。どちらも、実を結ばたいへん大きなビジネスになります。こうした事業を、長期的な視野を持って育てていくわけです。

投資先企業とともに新たな事業を立案したり、既存の取引先を通じて協働先や販路などのネットワークを紹介したりといったことにも取り組んでいます。

コラム

VLPセラピューティクス(VLPT社)

新技術で感染症やがんのワクチンを開発

VLPT社は、2013年、世界の「満たされていないメディカル・ニーズ」に応え、従来のワクチン療法を一変する革新的な治療法の開発を目的に、米国立衛生研究所ワクチン研究センターで研究・開発を行っていた赤畑渉博士が設立しました。ウイルス様粒子(VLP)や自己増殖RNA(レプリコン)技術を基盤として、がん治療、マラリアやデング熱、新型コロナウイルス等の感染症に対するワクチンの開発・治験を進めています。

2021年現在、VLPT社の日本法人であるVLPTジャパン(同)では、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)と厚生労働省からの助成を得て新型コロナウイルスワクチンの開発と治験を進めています。少量の接種で効果のあるレプリコン技術を用いることで、副反応を抑えることなどが期待されています。



赤畑博士

ご承知のとおり、双日は総合商社2社が合併して誕生しました。いずれも世界中に数多くの幅広い取引先を有し、多様な商材を扱ってきた強みがあります。そうした歴史的な資産を受け継いでいることも、イノベーション投資における当社の優位性となっています。

こうした投資姿勢と運営が、多くの案件で進行しています。2021年3月に投資を開始した米国のバイオテクノロジー企業VLPセラピューティクス(VLPT社)もそのひとつです。同社が保有する画期的な新技術を用い、社会ニーズに応えるワクチンの開発・治験を進めています。当社がアジア、南米、アフリカなどの需要地に有する緊密な海外ネットワークや、さまざまな事業活動で培った事業化の知見などが、今後の世界的な展開を支援することになるでしょう。VLPT社の成長が当社の成長につながり、社会にも大きく貢献することになります。

融合から新たな動きを生み出す

イノベーション投資は、成功が約束されているわけではありません。利益を生み出すまでに、時間もかかります。商社が伝統的に扱ってきたビジネスとは大きく異なります。とはいえ、イノベーション投資を始めて3年が経過し、経験値も高まってきました。リスクマネジメントや財務管理など、当初の課題はすいぶん解決しています。今後は、法務、とりわけ知的財産権などの分野で専門知識をより磨いていくことが必要です。もちろん、社外の専門家の参加も見込んでいます。

私は、双日に入社する以前から、当社が業界でもっともオープンイノベーションに長けていると感じていました。社内では、旧2社の文化がシナジー効果を発揮しています。会社の外に出て起業した多くのアルムナイ(注:卒業生)のネットワークもあります。こうした社内外のリソースを基盤として、融合から新たな動きを生み出していく素地に富んでいるのが、双日なのです。このような特長を活かして、イノベーション投資をさらに充実させていきます。